

府中かんきょう 市民の会

2003年 夏号
7月9日発行／季刊
発行人：大崎清見
連絡先：府中市住吉町2-30-31
3-508 TEL 042-368-2183



竹とんぼをみんなで作り飛ばしあった子どもたち
(4月26日、レンゲまつり会場で田中正仁撮影)

会長就任あいさつ

大崎 清見 平成15年6月1日

先ず、「府中かんきょう市民の会」の設立から4年間、横山永望前会長さんの熱意と行動力により、そのうえ事務局を中心に会員皆様が一体となった努力により、市民生活の快適性を目標とした、環境全般にわたる多くのプロジェクトに取り組み、実効をあげられたことに感謝申し上げます。

一方、毎月の定例会における協議をはじめ、観察会や見学会、研究会など、会の活動に参加してわかりましたことは、一人びとりの会員の熱心さと協調に加え、格段に明るい雰囲気当初から胸打たれ続けています。

さて今回、不肖私、4月の定例会において会長に選出されたわけではありますが、これは全くの青天の霹靂であります。

事前に横山会長さんからご連絡をいただきましたが、勤務の事情を始め、1年余りの本市民の会の経験、地元事情の疎さ、などなどから再三お断り致しましたが、横山会長さんから個人的な事情もうかがい、うとましながら実績の無い代打を承ったわけであります。

このようなこともありまして、今後、会員の皆様をはじめ、関係者皆様の格段のお力添えにより、何とか会務遂行ができますならば、と念願しております。

今後、会の運営につきましては、会員皆様との合意形成のうえ、目標に向かい歩んで行くことが最も適切な「みち」ではないかと思っております。

さて、私は「土と緑」が大好き人間です。このことに関連し、以前から楽しみながら読み続ける月刊誌が3冊あります。

1冊は「土壌環境保全対策」や「地球温暖化対策」など国内外の重要環境保全対策の特集を組んでいる「かんきょう」(編集:財日本環境協会,編集協力:環境省)。

2冊目は、全国的な活動推進記事「国民参加の森づくりで地球温暖化を防ぐ」や近未来思考対応の「行財政改革」などを掲載する「時の動き」(編集:内閣府)。

3冊目は、自治体担当職員が市民参加などについて画く、新しい行政の在り方シリーズ「地方分権時代を迎えての今後の行政」や「各都道府県だより」などの記事が多い「都道府県展望」(発行:全国知事会)です。

現在はパソコンなどでも即座に情報収集ができる時代でもあり、みんなで情報を持ち寄り、交換し、有効適切なヒントを得ながら活動に活かしていければと思っております。どうかよろしく願い申し上げます。

4月26日に行われたレンゲまつり。好天にめぐまれ約500人の参加がありました。今回は、レンゲが発芽する昨年秋の異常気象でせっかくのレンゲ苗が霜の害を受け、どこのレンゲ田も一面のレンゲというわけには行きませんでした。厳しい自然のありようも目の当たりにした第3回目でもありました。

レンゲまつり

●一般参加者の声

野川の遊水池にレンゲがある風景をつくれたらいいなと思って参加しました（小金井市の金井さん）。

レンゲが咲く風景を求めて青梅市の河辺などを訪れ昔を懐かしんでいます。アサヒタウンズを見て来ました（小平の年輩女性）。

土の上で遊ぶ機会ができてよかった（男/30）。

身近な自然に親しめて良いと思います。もっとレンゲ畑が増えていけばよいと思います（男/40）。

自然にふれあう機会として有意義（男/30）。

今後自然を残して行ってほしい（男/40）。

田舎の風景を思い出しました（女/50）。

なつかしい花に会えました。ありがとう。子どもの頃は転がまわって遊びました（女/50）。

子どもの頃をなつかしく思いだしながら歩きました。普段は畑のなかは歩けません。沢山の野草を目にして感動しました。麦畑のなかを転がり回って怒られたことを思い出しました（女/60）。

今日、親子で竹とんぼ作りに参加した、那須と申します。子ども達はもちろん、親の私も竹とんぼ作りは初めてで、紙やすりの使い方、火を使っての曲げ方等、興味深く、また楽しく作ることが出来ました。また、自分で作った竹とんぼを飛ばすことができた時の子ども達の満足そうな笑顔も忘れることが出来ません。



●ご協力いただいた方々

今年は天候不順で蜂が蜜を食べてしまい、蜜を作らない。方々、駆け回ってなんとか蜂蜜採取分を集めてきました（養蜂家の矢島さん）。

ネーチャーゲームに初めて参加しました（農工大の竹田さん）。

タケトンボづくりでは50本のタケトンボをつくりました（中山さん）。

近所の農家から孟宗竹を1本わけてもらいました。市内でタケトンボの材料が入手できるなんて素晴らしい（田部さん）。

のんびり出来てよかった（カフェスローの渡辺さん）。

精一杯やっただつもりですが、皆様の評価はいかがでしたでしょうか。今後、改善して行きたいと思いますので忌憚ないご意見をお願いします。準備や作成段階では苦労があるのですが、最後に参加した子どもたちの輝いた瞳を見るのが楽しみです（竹トンボの宮島和朗/東大和市）。

草笛も思ったより子供達が集まってくれまして、活気がありました。環境づくりの会合等がありましたら、アトラクションに草笛の演奏をしますので、お声をかけて下さい。自然環境保全の会や水資源対策の会などの講演会やシンポジウムなどの中休みに、大学講堂やホテルや広い公園等でも演奏をしています（草笛 河津哲也/小平市）。



みんなの声

●がんばった会員の声



今回のレンゲまつりでは広報関係を担当しました。開催案内チラシ4500枚と、「府中のレンゲまつり」1250枚を作成して、府中市内を中心に、実行委員や会員のみなさんのご協力を得て配布致しました。また、市の広報やマスコミ(朝日新聞、アサヒタウンズ)にも掲載されたため、多くの方から問い合わせを戴きました。

問い合わせの内容で最も多かったのは、はちみつの採取実演関係でした。実演の内容や、実演時間の問い合わせがあり、みなさんの関心の高さが判りました。問い合わせをされた方々は市外の方がおおく、立川、小平、西東京市、昭島市などからもありました。

問い合わせは、レンゲまつりが終わった後からもあり、是非レンゲの花が見たいので場所を教えてくださいとのことで、レンゲの花が一面に咲いていた昔の懐かしい風景を、忍んでおられました(竹内章)。

レンゲまつりの趣旨をもっとアピールすべきである。まつりでは各グループはバラバラ、会員がそれぞれについて参加者を「竹トンプボ」から「ぞうりつくり」へ…など、誘導して盛り上げを図ればよりよくなる。

「府中かんきょう市民の会」のPRをすること。参加者は会の趣旨、目的をほとんど知らない。したがってレンゲまつりも単なる「遊び」の行事という感覚のようだ(斉藤亨吾)。

野口委員長をはじめ各委員の半年にわたる企画と準備活動には頭が下がる思いです。当日のみなさまの朝の準備からまつりへの参加、あと片づけまでの手際よい行動は見ている気持ちよく、このみんなのパワーはどこから発せられているのか不思議でなりません。各人のDNAがまつりを成功させよと命令しているのでしょう。

このパワーがある限り、市民の会のイベントは必ず成功するでしょう。いい人たちの集いに加わることが出来て本当によかったなあ(羽尻元彦)。

私は、二つのことに想いを馳せました。一つには、小学生が咲きほこるレンゲ田の中で、首飾りや・指輪づくり・花と蜜蜂など、いろいろなイベントに参加し、6歳から9歳位までに身につける「原風景」を感じとってくれ、将来大輪の花を咲かせてくれる期待です。

二つ目は、会場の近くで生まれ、今は調布に住まわれる60歳前後の女性3名と話をしましたところ、「レンゲの花が懐かしい」と。このことは『人が自然を求めるのは、欲望ではなく本能である』との大原則の貴重な体験ができたことです(大崎清見)。

受付を担当して、受付場所とアンケートのタイミングに工夫が必要だと感じました。参加者の全容を把握するために、全員が受付を通るように2カ所にしたい。

アンケートでは参加の動機になった情報を把握したい。特にチラシをあれだけ配ったのにむしろ新聞の威力が大きかったように思う。また、レンゲファンクラブへの参加希望者を増やすには、受付場所での説明とアンケートがさらに必要と感じた(田中正仁)。

レンゲ田は人が集まっているわりには静か。お祭りの雰囲気はやや稀薄、鳴り物で盛り上げも必要では、草笛は音を出し、設備もいらず、曲も楽しめる。

今回の講師はカーネギーホールで草笛演奏を行った世界で唯一の方、童謡・ジャズ・クラシックなどレパートリーも広く、みんなが楽しみ、盛り上がるのではと思います。来年は「葉っぱでバッハ」を聴きたいですね(高崎利夫)。

新緑の美しい季節を迎えました。この度は、誠にありがとうございました。昨年は、近辺にこんな人気があるのを感じました。今年も、五月一日と二日は、二枚の地図を手に、歩いてまいりました。地図はともかく、来てくれて、お礼を言いたいです。一つを除いて全部回りました。可憐に咲いているレンゲ草に会うことができて、とても感激していました。懐かしいのあまり、いつとたたずみ、涙ぐんでしまいました。とてもすばらしく、美しい光景でございました。三鷹のほたるの里、そはまで行きなごう、行く道がよい、日が暮れ、また行くまで、地図をお作りになられた皆様のご苦勞を感謝申し上げます。先ずはお礼まで。

(松田悦子さん/多摩市)

— 前ページから —

草笛の音色（音の出るもの）、ネイチャーゲームなどは自然を身近に感じさせて良かった。

ぞうり作りを担当しました。藁たたき・縄を綯う・ぞうり作りを一から体験して貰おうと準備（叩き台・木槌用の木材調達・加工）しました。「昔はこのように藁を叩いたものだ」と、元気なおばちゃまの“藁たたき”実演に子供たちもビックリした様子。「ぞうり！学校で、先生が教えてくれた」。完成した片方を手に、「また来年に片方を作る」と約束してくれた子どもたち。「家で布を素材にしてスリッパ代わりに作る」という奥さん熱心でした。

準備段階では、時間がないと（看板立て・チラシ配布）出来ない。農家との話（接触）が出来たことは良かった（田上昌宣）。

前年に引き続き参加している人も散見され、レンゲまつりが徐々に定着していると感じた。

一般の人はたんぼに入る機会がないので、特に子どもたちがよるこんでいるようでした。

会場以外のレンゲ田の案内板設置、事前の農家への交渉などについて労力がより多くさかれるように思います（高橋和夫）。

私の関わっているフリースクールの3人の小学生（3、5、6年）が、わらじを作りました。強い日射しの中、大粒の汗を額に光らせながら、真剣にとり組んでいた、とってもいい顔が忘れられません。

3人とも左右のわらじを仕上げました。そのうち1人は

わらをもらって帰り、その日のうちに家でお母さんの分も仕上げました。

教えられる大人と場所と時間があれば、子どもたちは時代にかかわらず、知恵や手仕事を伝承できる力をちゃんと持っているのだなあと思います。

このちょっといびつで左右不揃いな世界に一足しかない自分のわらじから、田んぼの四季や自然の循環を感じてくれていると思います（瀧本美奈子）。

「娘と一緒に来ました。とても喜んでいました。」
「とても楽しかったです。だんだん自然が少なくなってきたので子どもには毎年来させたい。」
「なつかしい花にあえました。ありがとう。」

アンケートに答えて下さった市民の方々の意見です。この言葉に答えるためにも、また来年、汗を流しましょう（野口道夫）。

「昔、レンゲ畑で首飾りを作ったっけな」と思い出しました。ハチミツを売りつつ、後ろから聞こえてくる子どもたちの声に家でゲームに夢中になっている子どもが多いという現実にも昔遊び手作りの楽しさを伝えてゆく大切な行事だと思いました。

除草はレンゲを主役にするための大切な仕事です。雨が降った後に根こそぎ抜くのが最も効果的だと思いますが人海戦術でないと…。もっと協力者を募って行かねば…。

赤字を減らすために竹トンボ、わら草履、レンゲの首飾りなどのリーダーをボランティアにしては…（早川洋子）。

動き出す基地跡地保全

府中市美術館の北側にある在日米軍基地跡地（15.3ヘクタール／浅間町2丁目）は返還後、フェンスで囲われた状態で「留保地」として関東財務局が管理。荒れ放題の状態でしたが、逆に緑豊かな状態が保全されてきました。

「府中かんきょう市民の会」は、この緑を生かして、府中市の水と緑のネットワークに組み入れられないかと、議論を重ね、府中市などに対しワイズユースを申し入れてきとところす。

特に、世田谷の国立医薬品食品衛生研究所の移転計画が明らかにされてからは、①留保地全体の自然環境の調査、②留保地の土地利用の策定、③国立衛生研究所立地にともなう安全性確保の3点を要望してきました（詳細は『会報』2002年秋号参照）。

最近になって留保地の民間売却方針が明らかとなり、新聞報道でも伝えられたところす。これを巡って、当会の要望もあり、市議会でも取りあげられ、野口市長は緑地として市民に開放されるよう国に要望すると答弁。緑の保全に向けての動きが始まりました。（右は保全運動を伝える6月10日、12日付『朝日新聞』）

在日米軍 施設跡地

「市民開放の緑地に」 府中市、「特区」に要望へ

在日米軍府中空軍施設跡地（府中市浅間町）に、府中市は11日、改革特区に要望する方針を明らかにした。今月中に国を要望する。野口忠直市長は「国も売却することを検討している」と述べた。

同日の市議会で村崎啓二氏（市民フォーラム）の質問に答えた。市は先月、同じ跡地を抱える調布市や神奈川県の川崎市と連携して、民間企業へ売却する方針を固めていく。

同日の市議会で村崎啓二氏（市民フォーラム）の質問に答えた。市は先月、同じ跡地を抱える調布市や神奈川県の川崎市と連携して、民間企業へ売却する方針を固めていく。

市、無償貸与など要望へ

問題の跡地は、北側の約5ヘクタールは、在日米軍府中基地跡地について、市の市民団体「府中かんきょう市民の会」（大崎清見代表）が、危機感を強めている。先月、国に返還後、長利用されない米軍施設跡地の民間企業への売却方針が明らかになったから。一都庁圏に残された貴重な緑地空間。いったん売却されると取り返しがつかなくなる」と、保全を訴えている。

は、国立医薬品食品衛生研究所（世田谷区）が移転する見通しで、残り約5ヘクタールは、民間企業へ売却する方針を固めていく。

同日の市議会で村崎啓二氏（市民フォーラム）の質問に答えた。市は先月、同じ跡地を抱える調布市や神奈川県の川崎市と連携して、民間企業へ売却する方針を固めていく。

府中 米基地跡地「緑地に」

民間へ売却 市民、保全訴え

府中市浅間町に残されている在日米軍府中基地跡地について、市の市民団体「府中かんきょう市民の会」（大崎清見代表）が、危機感を強めている。先月、国に返還後、長利用されない米軍施設跡地の民間企業への売却方針が明らかになったから。一都庁圏に残された貴重な緑地空間。いったん売却されると取り返しがつかなくなる」と、保全を訴えている。

すすむ京王電鉄バスの環境対策

府中市民の身近な交通手段といえば京王バスです。このバスの環境対策を中心に京王電鉄バスグループから、取り組みの現状をうかがいました。

東京都のディーゼル車対策は今年10月から、国の新車に対する基準と同等の基準を全ての車に適用されますので、新車への買い換えか、基準不適合車は排ガス除去装置DPF(ディーゼル・パーティキュレイト・フィルター)(注1)、または酸化触媒装置(注2)の装備が義務づけられます。

京王電鉄バスグループは、京王電鉄バス(多摩地区)、京王バス(都区内と調布市以東の市)および南大沢京王バス(京王線北野駅中心)の3社がグループを構成しており、グループ全体で、約800台のバスを保有しています。

この保有車両対策について、4月末ではDPF装備を220台あまり、酸化触媒装置の装備を80台あまりすでに完了しており、6月末までに、さらに約130台に装着し、約70台が新車への代替になるということです。

(注1) DPF(ディーゼル・パーティキュレイト・フィルター): PM(粒子状物質)を酸化触媒で化学反応により減少させ、さらに化学的に分解しきれなかった粒子をフィルターで集塵する装置

(注2) 酸化触媒装置:PM(粒子状物質)を、白金等の触媒で酸化させ、二酸化炭素と水に分解することにより減少させる装置

また京王電鉄バスグループの環境上の主な対応として、アイドリング・ストップと低公害のCNG車(天然ガス)導入があります。

アイドリング・ストップは、この機能付きバス260台があり、この機能がなくてもアイドリング・ストップの励行で、あわせて燃費が10%以上向上したそうです。

また、CNG車(天然ガス)導入は、平成12年から都区内路線に一部投入、今年3月からはCNGステーション(京王エコステーション永福町)も営業をはじめたそうです。

その他、新フロンへの転換は約500台が完了しており、低床バスも(ノンステップバス約220台、ワンステップバス約220台)が採用されています。低床バスは、高齢者や障害者にとって乗降しやすく、利用しやすいので、バス利用者をふやすうえでも、環境対策の点でもよいと同社は考えています。(田中正仁)



都心部から導入しはじめた京王のCNG車

宮ヶ瀬ダム見学会



「府中かんきょう市民の会」では第4回目のバス見学会として、ダム問題やエネルギー問題の議論が盛んな昨今、「宮ヶ瀬ダム」見学を実施します。

先着45名の定員制ですので、お早めに申し込みください。

宮ヶ瀬ダム見学
9月29日 8:00~16:30
場所:神奈川県愛甲郡愛川町
集合:8:00 府中市役所西側玄関前
費用:1000円
昼食:現地レストランでとります
申込先:362-2684(横山)
362-6240(高崎)

府中市が今年度で取り組む環境対策事業のうち主なものは、環境基本計画の行動指針づくり、水と緑のマップづくり、仮称:美化条例など次のようなものです(館浩道)。

◆環境基本計画の行動指針づくり

1月に答申された府中市環境基本計画は、新年度の予算で正式の冊子としてまとめられ、6月には説明会も開かれました。同時に、計画の具体化のための「行動指針」づくりに向かいます。このため基本計画素案検討に市民参画したような、新たな段階での市民参画による検討も始まります。(関連予算300万円)

◆水と緑のマップづくり

昨年新しくスタートした「府中市みどりの活動推進委員会」による市民参画を軸として、今年度は既存の水と緑にかかわる資源を基礎にマップ作りの作業がはじまります(調査費400万円)。また、同時に府中用水を活用した「親水公園」作りにむけての調査も開始されます。(調査費450万円)

◆美化条例の制定

府中市は、散乱ゴミやペットのふん、タバコなど街路を汚す問題に対処するために「府中市美化条例(仮称)」の制定をめざしています。これは環境基本計画の素案検討段階でも大きな議論となり、基本計画では「ポイ捨てをしないまち」宣言と、「ポイ捨て禁止条例」制定を掲げています。市では平行して行った1000人の市民アンケート結果も参考にして、条例原案を環境審議会にかける方向で取り組みをすすめます。



稼働をはじめたCNGガスステーション
(晴見町2丁目の西東京ミツウロコで)

平成15年度で取り組む

府中市の 環境関連事業

◆ケヤキ並木通りの駐輪、一部緩和へ

7月からの放置自転車対策として小柳町と四谷の2カ所に自転車保管所を増設、撤去費用も2000円/台に値上げされます。

府中駅周辺のけやき並木通りの駐輪問題について、従来の全面駐輪禁止から、買い物客に限定して一部の場所を美観をそこねない範囲で3時間程度を限度として駐輪できる「ちょこりん・スポット」が7月からスタートしています。



府中市の公用車で初導入となる低公害燃料のCNG作業車

◆低公害CNG車、初の導入

公用車の低公害車導入促進の方針のもと、府中市で初のCNG(天然ガス)車が導入(6月納車)されます。みどりのまちづくり推進課に所属する「チップパー車」(剪定枝をチップ化する作業車/3.5t)の買い換えで、市内の民間業者(西東京ミツウロコ/晴見町2丁目)にCNGガスステーションが設置されたことで可能となったものです。昨年11月、府中市内に初めてお目見えしたこのCNGガスステーションには、国分寺市と小金井市からゴミ収集車が、府中市関係では給食センターの配送車のほか、他市でも導入が始まったコミュニティバスもCNGの補給に来るといふことで、今後、公用車に限らず随時CNG車への切り替えが期待されています。

環境関連の新任2課長に聞く

4月の人事異動で府中市の環境関連の2つの課の課長が新任となりました。お二人から抱負などをうかがいました(田中正仁)。

明快なメッセージ発信を心がけたい

環境安全部環境保全課 中山 俊介課長

9名を率いています。整備係(4名)は、清潔で快適な生活環境及び街の美化を推進する諸事業を、また、公害係(4名・課長補佐が係長兼務)は公害のないまち府中市をめざして、公害苦情相談、大気・騒音・振動・水質汚濁の監視・測定などを行っています。環境マネジメントシステム担当主査(1名)は、事務事業に伴う環境への負荷を減らすことを定めた府中市職員エコ・アクションプラン(注:会報2003年冬号及び2002年春号参照)の実行とISO14001認証取得に伴う事務事業を推進しています。

昨年度までは水道部に在籍して東京都との折衝が多かったようで、さらに以前には、この職場で課長補佐の堀口純伸氏と一緒に仕事をしたそうです。

久しぶりの元の職場は、以前より市民の方を向いており、良い意味の緊張感をもって仕事に向かっているそうです。

「リーダーとして、明快なメッセージ発信を心がけたい。また楽しく進めたい」と語っていました。

今年、環境関係では行動指針の具体化、市職員エコ・アクションプランの更なる推進の他に特に「美化条例」の制定が一番の目玉になるそうです。

問題調整が多いので、市民の力をうまく利用すべきと話向けると、「責任を転化しないようにわきまえていきたい。これこそが行政の要点である。」と力強く語って頂きました。

まずは親水空間の創造に力を入れたい

環境安全部緑のまちづくり推進課 鈴木 昭課長

19名を率いています。管理係(3名)は、庶務並びに予算及び経理に関することなど。公園施設係(11名)は公園、緑地等の維持管理及び築造に関すること。自然保護係(3名)は、緑の保全及び緑化に関する意識啓発など。緑化推進係(2名・課長補佐が係長兼務)は、公園緑地整備計画並びに中高層建築物及び開発行為に伴う緑地の指導に関することとなっています。

直前の環境保全課では、環境基本計画の策定、環境学習の開始など我々になじみが深かったことは記憶に新しいところです。子どもの頃、雑木林でカブトムシ採りをしたり、大勢で原っぱを駆け回ったりしたこと、うっそうとしたけやき並木を一人で通ることが怖かったことや、浅間山で仲間と冒険遊びをしたこともあったそうです。

『水とみどりのネットワーク』を旗印に活動しますが、「特にまずは親水空間の創造に力を入れたい。出来ることから始めたい。」とのことでした。水とみどりについて①ハード(ビオトープなどの整備)、②ソフト(情報提供により市民が既存の水辺や緑道などに親しむこと)、の両面を考えて行きたいと語っていました。多摩川との関わりに話を向けると、「当課の他に都市建設部など多くの部署が関わっており国土交通省との関わりが淡泊であったが、これを密にして行ければ良い。」とも語っていました。

「府中かんきょう市民の会には協力をお願いします。」と何度も繰り返していました。

住崎岩衛さん、東京都から局長感謝状

去る6月5日、「環境問題を考える都民のつどい」(東京都環境局主催)が開催されました。この席でディーゼル排ガス問題と取り組む、東京トラック協会と東京バス協会が東京都知事の感謝状を受けましたが、府中かんきょう市民の会の会員、住崎岩衛さん(片町1丁目)も、ご家族とともに都の環境局長から感謝状を受けました。

理由は「多摩市みどりの基本計画」で保全緑地として重点施策に位置づけられている土地(9,578.35平米)を多摩市に寄付することにより、環境行政の進展に貢献したというものです。

住崎さんは、この土地の寄付にとどまらず、多摩市の丘陵地をそのまま残し、保全する活動のリーダーとして、多摩市民環境会議で活躍されています。

住崎さんは「里山と農地を切り離したくない」、「里山からの産物である『くずはき(屑掃き)』を堆肥として農業に活用したい」、「再生できない里山の保全を志す仲間を増やし、その先駆けとして活動したい」との強い思いを持っておられます。

これからが本当の活動であり、さまざまな面から住崎さんの活動を支援して行きたいものです。





豊かで便利に暮らす都市住民が 都市環境に果たすべき責任とは？

人類は、気温が -30°C 以下にもなる北極圏のアラスカから、 40°C を越える中東の砂漠にまで住んでいて、環境への多様な適応性を備えています。温度に関していえば人間が暮らしていける環境というのは、けっこう範囲が広いということがわかります。生物の分布は気温が重要な決定要因になりますが、生物としての人間の適応能力の高さは、気温のみならず採餌や営巣環境の選択にも見られます。このような環境選択性の能力の高さゆえに、人間にとって望ましい環境は「これが最適な環境です。」と決めにくい状況にあるわけです。



府中駅南口再開発工事
後方はライオンズタワー府中

人間が環境と関わって生きることには、二面性があると考えられます。それは、「経済的に心配なく暮らす。」ということと、「生命を永らえる。」ということです。どちらも、「生きる」ことですが、経済を環境よりも優先させると環境問題がおこるし、生存のことだけを考え良好な環境を優先すると今の便利な暮らしが窮屈になります。とすると、人間が生きるためのバランスの良い環境は、自分たちが自らの意思で決定することが求められているといえるのではないのでしょうか。特に、多くの人が暮らす都市の環境のあり方には、はっきりとしたビジョンを持つことが必要ではないかと考えられます。

都市環境を考える場合、私が最も重要と考えるものは、「環境のことは都市住民が全て引き受けるという自覚と、それに基づいた責任が求められる。」ということです。例えば、東京で使う電気を北陸や東北で発電すること、廃棄物を地域外の焼却場や処分場に持っていきやり方などは都市で暮らす住民の環境への責任放棄であり、環境の二重取りであるといえます。発電所やゴミ処分場は、エネルギーを使いゴミを排出する住民が住む場所に立地し、その結果生じる大気汚染や環境破壊など環境へのマイナス要素は自分達が引き受ける覚悟がなければ、都市住民の環境への意識は高まらないし、想像力も働かせません。

でも、都市というエリアは限られた範囲であるわけですから、自分たちの努力がすぐに現れやすいと考えられます。ヒートアイランド現象などが比較的狭い人口集中範囲で生じることから想定すると、きっと明確なビジョンをもって取り組みを行えば、努力の効果はあるはずです。

様々な努力で都市環境の改善が実現したならば、その成果は相同の関係にある地球環境問題にもフィードバックできることとなります。世界中の都市が、自分達のオリジナルバージョンの環境改善方法を自慢し合うようになれば、地球環境の改善は早まるのではないのでしょうか。さらに今後IT革命が一層進めば、環境改善に関する情報は、あっという間に地球を駆け巡り、改善案並びに実行による成果や課題がどんどん蓄積され、相乗効果による環境のステップアップが期待できます。

私は、こんなことを実現するための第一歩が「府中かんきょう市民の会」の取り組みに他ならないと思っています。
(落窪一人)

腕章ができたよ



会員が屋外で活動するときにPRを兼ねて着用しようと腕章が作られました。さっそくレングまつりから着用をはじめました。公園清掃活動でも腕章の着用で、地域住民から声もかけられるようになってきています。野外での当会の活動時には忘れずに着用をこころがけましょう。